

1-46 家畜ふん堆肥を原料にした指定混合肥料
(JA静岡経済連・朝日アグリア株式会社)

○ JA静岡経済連は、静岡県内で発生する鶏ふん堆肥を原料にした汎用的なオリジナル肥料（特殊肥料等入り指定混合肥料）を製造し、県内で利用することで地域資源循環を図るとともに、県外を含めた広域での堆肥活用を目指す。

■国内資源の種類

鶏ふん堆肥
水分20%以下（目安）
堆肥として届出しているもの

■肥料の種類・肥料名称

堆肥・有機入り複合肥料036号
(鶏放題めぐる君)（ペレット）
※県内の鶏ふん堆肥約40%使用

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

県内で発生する鶏ふん堆肥を県内で活用することで地域における資源循環を図るとともに、輸入に依存する化学肥料の使用量低減による持続可能な農業の推進を目的として、JA静岡経済連と朝日アグリア（株）で共同開発。委託を受けたJA静岡経済連大井川肥料工場で生産され、令和5年5月から販売。

取組の内容

県内のたまご&ファーマーズ（株）で生産される鶏ふん堆肥を原料にして、大井川肥料工場で他の原料と混合し、ペレット化した肥料をJA静岡経済連を通じてオリジナル肥料として販売。

成果（見込み）

- ・静岡県内産鶏ふん堆肥を活用し、県内工場で生産することから、地域内での堆肥生産～肥料生産～作物生産の循環を実現した。
- ・県内複数地区の注文書に採用され、県内全域での活用を開始。
- ・県外を含めた広域での堆肥流通を目指して現地試験を実施している。

■作物

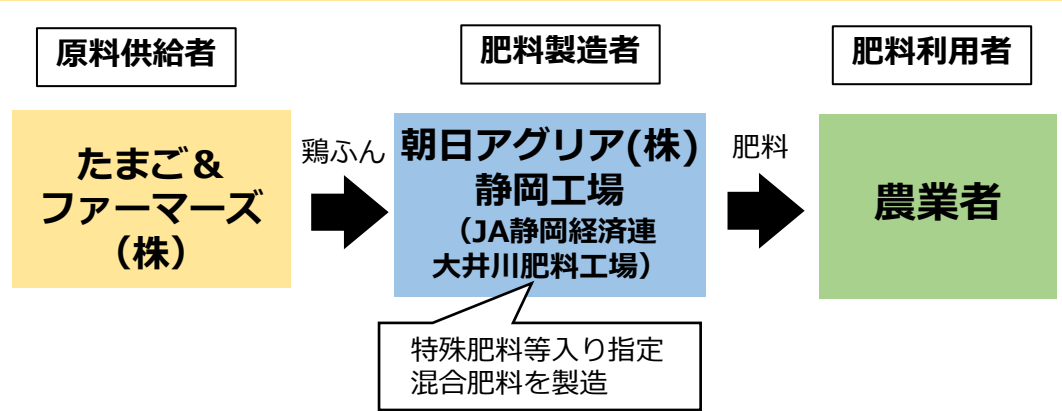
水稲・麦・
野菜・果樹等

■主成分の含有量(%)、特徴等

N	P	K
10	3	6

- ・畑に蓄積しがちなリン・カリを抑えた成分（低PK）で土づくりにも役立つ。
- ・堆肥と化成肥料を混合し造粒することで、散布作業の機械化に対応。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

- ・肥料価格の高騰により、販売量は増加。
- ・堆肥の利用が進んでいない地域等を中心に、土づくりの観点で利用を促し、取り扱い量の拡大を図る。



- ・肥料化できる品質の堆肥の安定確保特に低成分の表示値に対する許容値の僅少さに対応した管理